693

人閉鎖で友人をつくる 重した学びの保証

するとともに、

・学修を経験すること

を中心とした支援と②新 の主たる関心は先述と同 の特集を組んだ。そ ①メンタルヘルス

生が抱いたことは、①友 での報告によると、新ス ①については、(1)感

どのコミュニケーション 生活にメリハリがないな て実施する大学もある)

に。一方、多くの大学で

慣れ、通信環境の不備、

S・Web会議システム・

とメンタルヘルスに関す

や新入生歓迎会、オンラ

方でとれらは、

初年

イン交流会(2)SN

学修での知識やスキル修

教員とのコミュニケーシ

ン不足などの学修に対

、促進など)、(5)オン ライン面談(健康状 けるなどの配慮が尽くさ 欲の促進や成績の上昇を れている。また、なかに 示すデータや、学生調査 前年度と比して学修意

データをとおしたコロナ 禍における初年次学生の びべき課題などを挙げた 状把握と大学が取り組

とのコミュニケーション

一級学年とは異なる点で

学修は3・5時間とな

定などについての検証は

れからというところで

める。次はそれらをもと

とみられる。さらにPC 立に大きな格差が生じた て自主性と自律性との

れは、大学教育が目指的 基準の引き下げ、

> 度にもとづくと、年間50 じる必要がある。単位制

> > おわりに

度、そして強く認識して

ぬよう、この機会に再

ことばあそび」になら

のを支える基盤自体が

させられた。教育そのも

実施すべきである。

月~金曜日の5日間

の分析をおこなっている

、質保証や学修成果測

生調査をとおして満足度

各大学では実施した学

想起させられた問題 教育のさらなる向上を進 年次教育のみならず、大 員が多くいたことは、初 成果であった。この姿勢 学教育界にとって大きな めていくはずである。

における初年次 想起させられた問題

組み方、サークル紹介な 暮らしのアドバイス、課 オンタイムでは学

心事例は、大学・文部科 に。これらのデータや対 下不満が露わになってき

筆者の所属する初年次

ラインセミナーなどで

進する初年次教育の取り

大学教育適応支援を促

ルディスカッション「ポ を促す大学もあった。

面式の入学式・ガイダン

ストコロナにおける初年

施、(2)学生の意思を尊

教育の新たな手法を示唆

して成功事例だけではな

業の経験がないまま90

しかも遠隔授業に適

生と大学とをつなぐ工夫 以上の事例は初年次学 が加えられたことが、

制約のなかで初年次学生 に向き合うことができた められることは、 つ目は高校まで50分

を挙げておきたい。 教育の本質に関わる問題 夫や成功事例も多い で実施され、有益な 思い知らされた大学

の授業運営に様々な改善

都圏の大学ではほぼ1年 対面授業と同様にオンラ

や教員とのコミュニケ

低限必要である。

新入生にとって、大学授 の対面授業で学んできた んな方略をもって、主体 ーヨンが可能でアクティ 二つ目は成績評価の

イン授業でも、学生同一

ちだったかもしれない

の趣旨に則ったもの

果を高めようと張り切

はなく、今回改めて考え 従前からの問題であり決 績評価、単位の実質化は、 以上述べたアクティブ みられる。 しにも迫っていくものと 当すことができると考え にな視点での仕組みづく ならず、大学教育の新 は大学設置基準の見直 への序章であり、ひい 。それは初年次教育の

地域性などを因子とする そこに新入生と上級生、 能な限りの公開が望ま っことになる。そのため 力析とが必要となろう。 子部学科、大学の規模と でその結果については可 にも、各大学の調査項目 (通事項や特異事項を見 一接体制の再構築に向か 、内部質保証としての 学マネジメントや学生 全国的な収集整理と アルカディア学報693

は、何としても回避すべ

三つ目は、学生から

多くとも学期あたり18~

きである。個人的には

せてはならない。かつて

「教育学術新聞」令和3年4月7日(第2837号) 私大高等教育研究所より(崇城大学教授 藤本元啓) その事例と想起させられた問題」 「コロナ禍における初年次教育